



## 注釈

1. この表は、フィダル（アムハラ語の表記に使われる文字）を、アルファベット（ラテン文字）表記に転写するために用います。特殊記号を用いない簡便な表記法ですから、一般的な文章や、言語学分野以外の学術論文でアムハラ語の転写表記をおこなうのに適しています。特殊記号を用いた正確な発音表記は Leslau, W., *Concise Amharic Dictionary* (Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1976)などを参照してください。

2. 表のフィダルに対応するアルファベットの子音と母音を組み合わせることによって、転写をおこないます。なおアムハラ語の母音は七つあり、それぞれ第一 (1st) ~ 第七 (7th)母音という番号で呼ぶことになっています。

例) ቸ = *shu*, ተ = *twa*

3. 第六 (6th) 母音を含む音節が単語の末にあるときは、母音を発音せず子音だけの音になります。例えば ቤተ は *bet* と表記するのが正しく *beti* は誤りです。

単語のなかにある第六母音は、発音されるばあいと発音されないばあいがあります。例えば *Concise Amharic Dictionary* では、ሳከር = *bahir*, ሳከሪይ = *bahriy* のように示されています。同じ「ሳ」の音が、前者では「hi」、後者では「h」と示されていることに注意してください。この区別は曖昧なもののようなので、どちらかわからないときは、すべて第六母音が発音されるものとして表記しましょう。つまり「ሳ」は常に「hi」と表記してもかまいません。

4. アムハラ語には日本語の促音に似た音 (long consonant) があります。これはフィダルの表記には現れませんが、アルファベットに転写する場合には、子音を重ねることによって表記します。この区別は重要です。例えば «ላ» という単語は、「ale」と発音すれば「彼は言った」という意味ですし、「alle」ならば「彼は居る」です。

5. アムハラ語には短母音と長母音の区別がありません。単語の第二音節以降に母音だけからなる音節があるときは、異なる音節であることを明示するため、連続した母音のあいだに「'」を挿入します。もう少しわかりやすくいえば、アルファベットに転写したとき母音が連続してしまうときは「'」で区切ります。

例) ሰዓተ = *se'at*